

民主党政権が短命となる可能性はあるのか？

やぎ たかゆき
矢木 孝幸

電機連合総合研究企画室・事務局長

地殻変動といわれる今回の総選挙での民主党の圧勝は、いわゆる「振り子」のようなものだと考える方もおられます。では、振り子が再度振れ、自民党が政権を奪取する、すなわち民主党政権が短命政権になるのは、どのような時でしょうか？

もちろん「絶対権力は絶対に腐敗する」という有名な誤訳（正確には「専制権力は徹底的に腐敗する」）そのままに、平家物語にあるような、政権・権力の腐敗から、最終的に崩壊に至る可能性が、民主党にないとは否定できないでしょう。

今回の総選挙は「政権交代」という民主党のキャッチフレーズのように、「賞味期限が切れて、新しい提案ができなくなった政党の廃棄」と「新しい政権政党の選択」という選挙だったのではないかと思います。日本の復興・安定にはそれなりに便利だった55年体制の延命に継ぐ延命が、終焉を迎えたという、歴史の選択だったと思います。

他方、自由民主党のキャッチフレーズである「日本を守る、責任力」には、内政が上手くいかないときに、海外からの武力的緊張を利用して権力の継承をはかる手法のおいを感じたのは筆者だけではなかったはずだと思います。幸いなことにそれなりに成熟しかけている日本の報道機関は、挑発的な発言をかなり冷淡に扱っていました。前回の小泉劇場からの反省によるものかもしれませんが、経済政策に失敗している中で、「責任力」といった抽象的な表現の政党に報道関係者がなびくことはありませんでした。

では次代の世界を牽引するカギは何でしょうか？新自由主義の奔流のなかで、民主主義の上に資本主義があるのであって、逆ではなかった

という反省が、すでに世界規模で始まっています。後生の人々がそれをどのように名付けるかは別として、規制をなくして市場に任せれば全て上手くいくという新自由主義の幻想がもたらした惨禍は、人類が二度と同じ轍を踏むまいと考えるに十分な激震であったと思います。

世界規模では、福祉国家を志向する流れがどうやら定着しているように思われます。なるほど「労働型福祉社会」などの候補はありますが、いまだに、特定の「××主義」という旗印は鮮明にはなってはいません。いずれにせよ、考え方の基本には、修正資本主義を核として、累進課税等による社会的な所得再配分機能を強化することで、今までのお金持ち優遇政策を転換し、傷ついた社会を癒そうとする動きは共通しているようです。

俯瞰すれば、もちろん油断は禁物ですが、衆議院議員の任期が4年であり、来年には参議院議員選挙（半数ずつ3年ごとに改選）が行われることを考えると、次期参議院議員選挙での民主党による参議院安定過半数の実現、四年後に衆参同日選挙による民主党による安定長期政権樹立といった流れが実現する可能性があると思われれます。

放送法では不偏不党、政治的公平が義務付けられている関係から、今回の総選挙では非難・中傷に満ちた与党の党首発言が放送されることはやむを得なかったかもしれません。しかし、新自由主義を標榜し、あげくの果てに品格を落とした政党が、「昔の思い出」をスローガンに掲げ、臆面もなく大幅な路線変更を行うことは考えにくいのではないかと思います。その意味で、民主党がマニフェストを実現・実践する限り、スキャンダル以外での政権交代はありえないかもしれません。